

ディレクトフォース感想文

私は、今回のディレクトフォースとの交流会に、将来の夢であるエンジニアになるためにどのような努力が必要か、またエンジニアとして海外で働くためにはどのような心構えでいたらいいかということについて、三菱商事の素晴らしい社員の方々から具体的なヒントをいただきたいという思いで参加した。

三菱商事の本社ビルの会議室につくと、まず海外で活躍していらっしゃる3人の社員の方々から、海外での事業について、プレゼンテーションをしていただいた。とても生き生きとした口調で、とても分かりやすく、具体例も交えて説明していただいた。3人のプレゼンテーションの中でもっとも印象に残ったのは、モザンビークでアルミニウム製錬工場を展開するプロジェクトに参加した〇〇さんの話である。

彼が参加したのは、モザール アルミ精錬プロジェクト。携わった工場では、日本では莫大な電気が必要なためできないアルミニウムの生成を行っている。アフリカの荒野で巨大な工場を稼働させる、というプロジェクトだが、私が注目したのはモザールが行っている地域貢献活動である。同プロジェクトでは、1,250名の正規従業員が働いていて、港湾荷役などのプロジェクト関係者を含めると過去からの累計で1万名に及ぶ人が働いている。つまり、莫大な雇用を創出しているのだ。また、MCDT（モザール・コミュニティ・ディベロップメント・トラスト：モザール地域発展基金）を設立した。モザールが利益の1パーセントを拠出しているMCDTは、学校の建設、マラリア予防と治療のための診療所整備、HIV教育の浸透等の支援を行っている。「モザールが学校をつくる。そこで優秀な人材を育てる。その人々がモザールの工場で働く。そういう良いサイクルができつつある。」と〇〇さんは言う。

私はこの話を聞いて、会社が地域に対して社会的責任を果たしていくことは重要だと感じた。企業が自らの利益だけを追求し地域に対して全く配慮をしなければ、地域の活力は企業に吸収されてしまう。また会社からしても、地域との関係が悪化しその後の事業がうまくゆかなくなってしまうのは良くないことだ。しかし会社がある程度の配慮をすれば、会社が利益を得ながら、地域の産業も活性化する。結果として互いが満足することができるのだ。〇〇さんの話は、私に会社の社会的責任について考えさせてくれた。

プレゼンテーションが終わると、次にディレクトフォースとの交流をした。私たちの班に最初に来て下さったのは元役員の□□さんだ。彼は、さまざまな常識の「差」について、ものを食べるときに容器を置いて食べる民族と容器を持って食べる民族を例に挙げて、興味深い話をしてくれた。

韓国人が茶碗をテーブルに置いたままご飯を食べて、日本人が茶碗を持ってご飯を食べるのはなぜか。それは、日本では昔、食事を低いテーブルの上のせて食べていたからである。食器の置いてある位置が韓国料理などと比べて低いので、わざわざ食器を手で口元まで運ぶようになったのである。この話で彼が言いたかったのは、どんな常識の差にも「ルーツ」があるということだ。どんな考え方の違いにも、たどっていけば必ずそのルーツが存在する。そんな彼の考え方に、私は納得させられた。これから機会があれば、どのようなことにどのようなルーツがあるのか、自分で考えてみたい。

また□□さんからは、宗教についてもお話をいただいた。彼の考え方では、宗教というものは、純粋な信仰という美しい部分と、政治に絡んだ醜い部分を持つ、二面性を持つものらしい。だから、その美しい部分だけを見て信者になり、醜い部分に利用されてしまうことの無いよう、宗教にはすぐに飛びつかない方が良いというアドバ

イスをいただいた。

最後に私たちの班に来てくれたのは、△△さんだ。彼は、30代の現役の社員の方で、とても若々しく、はつらつとした話し方で、いわゆる「エリート」だなと感じた。そんな彼は私たちに、学生時代に培う力についての話をしてくれた。海外などで働き、彼が最も大切だと感じたのは、「相手を知る力」だそうだ。たとえば、仕事で仲間と一緒に働く上で、その人がどのような人柄で、どのようなことをすると喜び、どのようなことをすると怒るのかなどを知っておくと、コミュニケーションを取る上でとても役立つしその人とも仲良くなれるらしい。これは、学校生活にもあてはまる。△△さんは、「学校にも当然好きな人、嫌いな人はいるでしょうが、その嫌いな人についてもっと知ってみる、もっと話してみると、その人のことが良く分かり、だんだん好きになっていくかもしれないですよ。」と私たちに教えてくれた。私も何人か苦手な友だちがいるが、彼の話聞いて、彼らに話しかけてみれば意外な一面に気づけて楽しいかもしれないと思った。

今回のディレクトフォースとの交流会では、「会社の地域貢献」から「学校生活」まで幅広いテーマについて三菱商事の優秀な社員の方々と突っ込んだ意見交換をすることができた。一生のうち最初で最後、まさに一期一会の経験だったと思う。この経験を、大学進学のために勉強している時に思いだしてやる気を出させる疲労回復薬や、将来の進路を決める際の重要な参考にしたい。